

少年

第439号(1) 令和4年10月(神無月)発行



山梨県警察本部
生活安全部 少年・女性安全対策課
甲府市丸の内1-6-1
055-221-0110 内線3082
少年対策官 北原宏明

他者を尊重する精神



日本の祝日は「国民の祝日に関する法律」によって定められています。10月は第2週の月曜日が「スポーツの日」として祝日に定められています。「スポーツの日」は「スポーツを楽しみ、他者を尊重する精神を培うとともに、健康で活力ある社会の実現を願う」日と同法には記されています。かつては「体育の日」という名称であったこの祝日は、10月の第2週の月曜日ではなく10月10日と定められていました。なぜ、その10月10日が「体育の日」に定められたかということ、ご存じの方も多いかと思いますが、今から59年前（1964年）に日本で初めて開催された東京オリンピックに由来しています。東京オリンピックの開会式が10月10日に行われたことを記念して1966年に「体育の日」として祝日に定められ、現在では「スポーツの日」となっているのです。

昨年は2度目の東京オリンピックが開催されました。それから随分時間が経っており、記憶が失われている方も多いかと思いますが、最も印象に残った競技や選手を思い出すことはできますか？人によって挙げるものはさまざまだと思いますが、私は柔道で金メダルを獲得した大野将平選手が印象に残りました。前回のリオオリンピックに続いて金メダルを獲得したからということもありますが、金メダルを決めた後に畳上で大野選手のたった行動が私の中では強く印象に残ったからです。

大野選手は、決勝でジョージアのラシャ・シャフダトゥアシビリ選手との延長戦を制して金メダルを確定させた瞬間もガッツポーズや笑顔を見せるといった自分の感情をあらわにすることなく勝利判定を受け、その後も相手に敬意を表して丁寧に礼をし、相手と抱擁をしました。畳を降りる際にも、形式的な礼ではないとても美しい立礼をした後によく笑顔を見せました。

今年の「夏の甲子園」においても大野将平選手の話と同じようなシーンが見られました。それは兵庫県代表の社高校と岐阜県代表の県岐阜商の試合です。社高校は夏の甲子園初出場で初勝利を決めた瞬間にも、選手はガッツポーズや抱擁をすることなく、試合終了の挨拶に臨みました。登録メンバーの多くが新型コロナウィルスに感染し、大幅に選手を入れ替えた県岐阜商を慮ってそのような行動をとったのです。社高校の後藤選手は「相手側の立場なら苦しい状況。相手への敬意を忘れずに、対戦できる喜びを感じてプレーしていた。」と試合後のインタビューに答えました。

スポーツには当然勝ち負けがあり、選手は勝利を目指して戦います。辛い練習に耐え、不断の努力を続けてきた末に勝利を手にした瞬間、その喜びをあらわにすることは、自然なことで、決して批判されるものではないと思います。ただ、それと同時にスポーツは対戦相手や審判がいてこそ成立するものであることを忘れてはいけません。スポーツを通して「他者を尊重する精神」もしっかりと身につけたいものです。

10月は、中学校や高等学校において3年生が部活動から引退し、1・2年生の新チームで挑む新人大会がはじまる季節です。運動部に所属している生徒は新体制になったこの機会に自分が取り組んでいくスポーツを通して何を目指したいのかを再度考えてみましょう。またスポーツの世界だけではなく、世の中は人とのかかわりなしには成り立ちません。決して1人では生きていけません。自分とかかわっている人への敬意を忘れずこれからも生活していきたいものです。



ふるさとの味

10月になり、本格的に秋を感じるようになってきました。秋は「芸術の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」などと言われます。皆さんにとって今年は「何の秋」になっているのでしょうか。

秋はさまざまな農作物が収穫時期を迎えます。秋に収穫時期を迎えるものの1つに「栗」があります。私は18歳まで岐阜県美濃地方の恵那市で生活をしていました。その恵那地方は栗の産地で、秋になると季節限定で「栗きんとん」というお菓子が販売されはじめます（正月のおせち料理のそれとは異なります）。そのお菓子を口にすると、季節を感じるとともに不思議とふるさとも感じます。

山梨県にも山梨を感じたり、思い出したりできる「ふるさとの味」はたくさんあります。しかし、ここ最近、その「ふるさとの味」が山梨県にいかなくても（行かなくても）手に入れることができるようになってきました。私は今夏、こんな体験をしました。恵那市に行く機会があり、旧友にお土産として山梨の「ふるさとの味」である信玄餅を購入していったのですが、その帰りに恵那市にある高速道路のサービスエリアに立ち寄ったところ信玄餅が販売されていたのです。

世の中は急速なグローバル化によって日本のみならず世界各地で販売されているものを簡単に手に入れることができるようになりました。「ふるさとの味」が他の地方でも販売され、認知されるようになることは嬉しいことですが、どこでも手に入ってしまうと「ふるさとの味」ではなくなってしまうような気がして少し複雑な気持ちになります。皆さんはどう思いますか？そして、皆さんにとってこれからも大切にしたい「ふるさとの味」って何ですか？



発行番号は昭和61年初号からの通算番号です。

https://www.pref.yamanashi.jp/police/p_syonen/shonenkoho.html

第40回 少年を非行から守る中学生防犯弁論大会

9月22日(木) 敷島総合文化会館において、「第40回少年を非行から守る中学生防犯弁論大会」を3年ぶりに開催し、県下警察署管内で行われた地区大会の代表者13名が出場しました。代表者からは、中学生の視点で防犯や少年非行について、日頃考えていること、実践していること、体験を通して考えたことなどが発表されました。どの発表も甲乙付けがたい説得力のある素晴らしい内容の弁論でした。参加した代表者全員に拍手を送りたいと思います。

最優秀賞 つながりをつくる一步を

甲斐市立竜王北中学校3年
松本 己和 さん

「挨拶をすること。誰かのために行動すること。野球だけでいても、いい選手にはなれない。」これは、尊敬する野球部の先生の教えです。

もともと積極的なタイプではなかった私は、中学校に入学したとき、自分から挨拶をする習慣がありませんでした。毎日意識して、誰に対しても挨拶ができるようになった結果、大きく変わったことがあります。それは、人とのつながりの糸が増えたことです。野球部や学校の仲間、先生方、試合をする相手校の選手。挨拶がきっかけとなって会話をしたり、笑顔の挨拶に励まされたり、勇気づけられました。挨拶がコミュニケーションの入り口となり、たくさんの人たちとつながりができました。

「誰かのために行動する」強く意識していないと、どうしても自分中心になってしまいます。最初はなんだか損をしているように感じることもありました。しかし、教えを実践していくうちに、生活の中で思いやりの輪が巡っていることに気づいたのです。例えば野球部では、準備や片付け、練習中の声掛けなど、様々な場面で助けたり助けられたりすることが増えました。こうした思いやりは、時に私の背中を押し、特に心を休める場所となり、私を支えてくれます。

私は自分を変えるための一步を踏み出し、信頼できる仲間、信頼してくれる仲間ができました。私はこうした人とのつながりこそが、犯罪への強い抑止力になると考えます。犯罪を犯した人たちは、深い孤独感や孤立感が背景にあったのではないのでしょうか。私は報道などからそう感じました。

信頼してくれる人がいると、前を向くことができます。大切に思ってくれる人がいると、悲しませるようなことはできません。普段から周りの人たちと、よりよい関係を作る努力をすることで、道を外れそうになったとき、叱って引き留めてくれるかもしれません。

手のひらに収まる携帯電話で、たくさん人とつながることは簡単です。しかし、その中に太い糸は、一体何本あるのでしょうか。私は経験から、直接的なコミュニケーションに勝るものはないと考えています。なぜなら、挨拶で開かれた入り口から、誰かのために行動することで、人とのつながりが太く、強くなることを学んだからです。

私は今年、生徒会長と野球部のキャプテンを務めています。小学校の頃には、人前に立つことなど、到底考えられませんでした。人は、人とのつながりの中で自分を変え、人生を豊かなものに変えていく。そして、そのつながりは、犯罪の抑止力にもなる。

試合中、窮地に立たされた私に先生は言いました。「周りには自分が思っているより、頼れる仲間がたくさんいる。苦しいときは、もっと仲間を頼っていいんだ。」

みなさんも、人との温かなつながりをつくる一步を踏み出してみませんか。そのつながりが、社会から犯罪を減らす温かな光になると信じて。

《大会成績結果》 代表者のみなさん、素晴らしい発表をありがとうございました

賞	氏名	学校名(学年)	演題	警察署
最優秀	松本 己和	竜王北中 3年	つながりをつくる一步を	甲斐
優秀	中根 望知香	長坂中 3年	顔の見えない犯罪者	北杜
優良	井手 小遥	若草中 2年	誰一人取り残さない	南ア
入賞	久保田 琥大	富竹中 1年	寄り添い、見守る	甲府
	駒崎 仁香	三珠中 3年	孤立のない社会へ	鯉沢
	松下 真由華	都留第一中 3年	私たちと犯罪	大月
	千葉 菜摘	城南中 3年	心の鍵を開いて	南甲府
	長田 汰樹	敷島中 3年	たわいもない会話を	甲斐
	加藤 喜佳	塩山中 3年	言葉の向こう側	日下部
	渡邊 未空	身延中 3年	ネット社会は表裏一体	南部
	小島 唯	上野原中 3年	今、私たちにできること	上野原
	藤谷 真奈美	春日居中 3年	桃を通して見つけた「鏡」	笛吹
	上條 唯	吉田中 3年	「画面」という区切りを壊して	富士吉田

*入賞者の記載順については発表順となっています。